

仲間と学ぶ宿泊体験教室推進校 釈迦小学校

1 取組の概要および成果

(1) 取組の概要

「発見、友だち・自然・感動の宿泊学習」をテーマとし、自然にかかわる体験活動を実施してきた。自然に親しみ、自然を味わう体験活動として・オリエンテーリング・うどん作り・竹細工・工芸教室、乗馬、魚釣り、また、科学に興味を持ち、科学の発展に学ぶ体験活動として・自然科学博物館、宇宙センター見学を実施した。

(2) 特に配慮した事項

- ① ねらい・自然を中心に多様な体験活動に親しむ中、自然の豊かさ、恵みによって自分たちの生活が支えられていることに感謝し、自然等との関わりを一層深め、自分にできることを自分からやっという態度や意欲を育てる。

・宿泊を通じた体験を通して、まわりの人の良さに気づき、自分のよさも知ってもらうことで、協調性や連帯意識に基づくよりよい人間関係をつくる。

- ② 年次ごと 第1年次（平成19年度）の計画

・第1期 茨城県猿島郡境町 さしま少年自然の家

1泊2日平成19年6月26日(火)～6月27日(水)

・第2期 茨城県古河市 ネブルパーク2泊3日

平成19年8月20日(月)～8月22日(水)

第2年次（平成20年度）

・第1期 さしま少年自然の家 1泊2日 平成20年6月9日(月)～6月10日(火)

・第2期 ネブルパーク 2泊3日 平成20年7月30日(水)～8月1日(金)

(3) 成果

- ① 自然にかかわる体験活動を行ったことで、自分たちの身近にある自然が与えてくれる恵みに気づき、自然の中で生かされていることのすばらしさを学ぶことができた。新しい自然との楽しみ方・関わり方を知る機会となった。
- ② 長期の宿泊や様々な体験活動を仲間と行うことでお互いの存在を意識し、尊重する態度が出てきた。自分の仕事や行動に責任を持つといった態度が学校生活の中にも反映されてきた。
- ③ 児童により深く豊かな体験をさせるためには、現地視察はもちろん念入りな打ち合わせが必要不可欠であったが、児童が事前の準備から自主的に活動し、実施当日もお互いを尊重しあって活動したり、自分の役割を責任を持ってやり遂げたりする姿を目にすることができた。
- ④ 長期宿泊をとまなう体験活動を行うにあたり、事前の準備や役割について学校全体で取り組むと共に保護者等との協力が沢山あり、児童も感謝の気持ちを持つことができた。

<児童の感想から>

- ・「キャビンに泊まった時、お風呂の順番を相談して仲よく決めることができた」
- 「バーベキューの手伝いをしてもらい、美味しく食べられた」
- 「夜遅くまで、友達といろいろな話をして楽しかった」
- 「たくさん体験したことを、これから生かしたい」
- 「割り箸鉄砲の作り方を友達にやさしく教えてもらった」等、友達との触れ合いのなかで、お互いを認め、良さに気づいた等の記述があった。
- ・初めて体験したことが予想以上に多かったため、もう一度行ってみたい、やってみてみたいといった感想も多かった。

2 学校の推進体制と学校支援委員会の活動

(1) 学校の推進体制と学校支援委員会の活動の概要

- 学校支援委員会の主な活動について
 - ・体験活動の内容についての検討
 - ・体験活動の協力体制の整備
 - ・体験活動の配慮点
 - ・体験活動の評価

(2) 成果

- ① 学校支援委員会において体験活動の内容を検討し、児童が自然の中で豊かに体験できる取組について話し合った。事前準備や当日の協力依頼についても確認をし、学校と保護者、支援委員との連携によって体験学習がより充実したものとなった。
- ② 各活動の担当分担を明確に行い綿密に計画をたてたことで、当日の動きはスムーズとなり能率よく活動を行うことができた。
- ③ 事前打ち合わせに各担当者が赴いたことで時間を有効に使った活動が行えた。お互いの意見・アイデアを出し合い、体験活動の幅も広げることができた。
- ④ 学級懇談会において理解・協力を求めたところ、当日は多数の協力が得られ特に野外活動（バーベキュー）においては安全面での配慮も十分に行うことができた。
- ⑤ 児童と行動をともにした保護者からは、普段みられない一面がみられ貴重な経験ができたと感想がいただけた。

3 今後の課題と改善点

- ① 自然にかかわる体験活動を実施していく上で、計画の段階からより詳しい打ち合わせや役割分担の必要性・保護者の理解・協力体制の充実が大切であると感じた。
- ② 児童は初めての体験にもかかわらず、積極的に活動に挑戦し、各自が貴重な体験を持ち帰った。来年度はさらに活動の幅を広げ、豊かな体験活動が展開できるよう、協力体制の充実を図っていきたい。